

舞台芸術と地域創生～コミュニティの場を中心とした研究～

大阪芸術大学 舞台芸術学科 特任講師 河邊こずえ

本研究は劇場外の地域において舞台芸術、とりわけ舞踊を中心にワークショップや舞台企画を行い、それぞれの地域の抱える問題にアプローチをかけていくことを目的としている。令和6年度における研究については、過疎化した地域に対するアプローチ、都心部におけるアプローチと大きく2つに分けて企画、実践、調査を行っていった。

調査としては、まず都心部、地方における美術館や芸術企画について、既に行われている企画の考察を行なっていった。やはり傾向として、特に絵画、彫刻、映像、美術を中心としたインスタレーション企画が多く見られた。古典美術に関しては、常設展や通常の期間限定美術展にて行われる事に対して、前述したインスタレーションの特色は、参加型、体験型であり、開催に合わせてイベントやワークショップ、が共に行われていた。都心部においては、普段美術館に行く機会のない若年層にも多くのアプローチが見られ、イベントの一環として芸術に触れる新しい場として効果が見られた。

また地方においても、それぞれの地域にしかない背景や特色を生かし、それぞれの地域においてしか表現できない作品を生み出していた。そしてその作品観覧やインスタレーションをきっかけに過疎化した地域に人々が集まり、新しいコミュニケーションの場としての機能を果たしていた。これらの調査、考察を経て浮き出されるのは、やはり舞台芸術の様な時間を要する芸術に関してはまだまだ企画が少ない現状がみられた。現地聞き込み調査によると、やはり時間の約束が必要な企画に関しては集客率が悪く、企画側のリスクを伴うことを懸念していた。

しかしながら、反対に長期に渡る展示やインスタレーションに関してはそれなりの集客は見込めるものの、一斉に沢山の人が集う機会にはならない為、特に地方の企画としては実現させたいと言う要望も多かった。

今年度筆者が実践した企画としては、石垣島において自治体の人々と協力して、子供向けのイベントを行った。このイベントは5年前から続いており、舞踊を絡めた企画は2年目となる。こちらのイベントは石垣島の抱える問題。離婚率全国一位であり、1965年頃から全国平均を上回るようになり、2002年を除き、1985年以降連続して1位、そして出生率

は2024年11月時点で、人口1,000人あたりの出生率は8.7で、50年連続で全国1位を維持している。つまりシングルマザー、シングルファザーが圧倒的に多い。そしてこの問題は深刻化しており、実際に子供の面倒をみることの出来ない世帯が多数存在し、ホストステーションと呼ばれる自治体による支援によって、やっと生活ができていた子供達で溢れている。石垣島に移住した元舞台監督はこの現状を変えるべく。芸術に触れる機会のない子供達に、ハロウィンにかけて、本当の役者と作るお化け屋敷企画を行ってきた。この企画は反響を呼び石垣島の人々、子供達の楽しみにしているイベントとなっている。

2023年に初めて、そのお化け屋敷のイベントにてプロの舞踊家がお化けをテーマにして、衣装、メイクも施し、踊りを披露した。来客数は1500人を越えた。2024年昨年度は、一般公募によるダンスワークショップを2日間行い、最終日には石垣市民会館中 Paul にて舞台美術、衣装、メイク、照明も入り、上演会を行った。子供達は自分の思うままに表現に挑戦し、来場者からは驚きと感動の声を沢山いただいた。中には、これを機にプロのダンサーを目指したいと言った小学生の女の子もいた。現にこの企画における出会いによって舞台照明家を目指した青年は、数年東京にて修行を行い。昨年石垣島に戻り、石垣市民会館ホールの職員として照明を当てていた。彼は家庭の事情から非登校になり、定時制高校に通っていた青年であった。

このように経験格差をなくす、芸術と出会う場があれば、子供達の可能性は無限であり、沢山の可能性を発揮できる。そのためには、まず人々が集う場、共に感動する場が必要だと強く感じている。